

発 言 通 告 書

| | |
|---------|--------------------------------|
| 発言者氏名 | 井坂 直 |
| 発言の会議 | 令和5年 8月30日 本会議 |
| 発言の種類 | 質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他 |
| 質疑等の方式 | 一 括、 <u>一問一答</u> |
| 答弁を求める者 | 市 長 |

【件名及び発言の要旨】

I マイナンバーカードによる負担への対応について

- (1) トラブルが相次ぐマイナンバーカードをめぐる、政府は総点検の中間報告と再発防止策を発表し、原則11月末までに点検を終え、結果を公表する予定としている。総点検は、国がマイナンバー政策を拙速に進めたために発生したトラブルを把握する作業であり、作業にかかる費用は全額国庫負担とするべきだ。自治体でかかった費用はどのような形で支払われるか、国から説明を受けているのか。また、その内容はどのようなものか。
- (2) 本市における今回の総点検はどのくらいの業務量になる見込みなのか。
- (3) 様々な不安やリスクが心配されるが、それでも国は今年度中に、母子健康手帳とマイナンバーカードの一体化を一部自治体で始める予定としている。さらに2024年度からは、運転免許証との一体化や介護保険被保険者証としての利用も進める計画だ。このままでは、さらなるトラブルが発生し、自治体の業務負担と利用者の管理負担が増えることを危惧するが、市長のお考えを伺う。

2 介護予防・健康増進の取組と高齢者の居場所づくりについて

- (1) 横須賀市高齢者福祉に関するアンケート調査結果によると、「介護予防の取組をすとしたら、どのような場所で行いたいと思いますか」という設問に対して、「コミュニティセンター・行政センター・体育館などの市の施設」という回答が41.3%でトップだった。身近に存在する公共施設としての期待と役割がますます大きくなってきていることが示されているのではないかと。

3 公共施設の在り方とFM戦略プランの進め方について

- (1) 公園プールが廃止されることについては、「プールは子どもと一緒に遊べる大切な場所。残してほしい。」など、存続を求める声が多数寄せられている。利用を楽しみにしている声、これからも必要とする声がたくさん寄せられている市の公園プールの存在について、市長の率直な御所見を伺う。
- (2) 本市は海水浴場が少なく、暑い夏にプールで安心して泳げる環境は、地域にとって貴重である。子どもたちには様々な経験をする機会を与えたいという理念からも、公園プールの存続について改めて検討してみたいかがか。
- (3) FM戦略プランで廃止が示されている各地域の公共施設では住民説明会が開かれたが、施設廃止後の機能移転についての説明を求める声や、代替施設の利用方法などが決まっていないのに廃止を伝える市の姿勢に疑問を投げかける声が見受けられた。少なくとも理解が得られたとは言い難い説明会であり、このまま進めては地域と行政との関係性に影響が生じることを懸念するが、市長はどのようにお考えか。

4 ゼロカーボンの取組とクールシェアについて

- (1) 久里浜の石炭火力発電所の1号機が6月30日より営業運転を開始して2か月が経過した。この間の発電電力量及び二酸化炭素排出量について報告はどのような形で受けているのか。

- (2) ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプランでは、エネルギー転換部門の取扱いとしてCO₂排出量を算入せず、削減目標にも入れないこととしている。しかし、事業者の責務としても参考値として公表していくことが重要であり、市も把握することが必要ではないか。
- (3) 一部公共施設において、更新されない古い備品を使用し続けていることによる二酸化炭素排出削減及び省エネ・節電と相反する事態が見受けられる。適切な点検・交換をする必要があるのではないか。
- (4) 熱中症のリスクは毎年高まっている。一人暮らしの方は、電気代が高騰しているため、自宅のエアコンの使用を控えて省エネ節電に努める傾向がある。市は、公共施設のフリースペースなどを活用した「ひと涼み運動」を進めているが、このクールシェアの取組の現状と課題について伺う。